

平成 年度

工事

施 工 計 画 書

平成 年 月

発 注 者 鳴 門 市 企 業 局

施 工 者

## 目 次

第 1 章	工事概要	・ ・ ・ ・ ・	1 - 1 ~ 3
	1 . 工事概要	・ ・ ・ ・	1 - 1
	2 . 位置図	・ ・ ・ ・	1 - 2
	3 . 主要工種数量・支給材料及び貸与物件	・ ・ ・ ・	1 - 3
第 2 章	計画工程表	・ ・ ・ ・ ・	2 - 1 ~ 2
	1 . 工程計画	・ ・ ・ ・	2 - 1
	2 . 計画工程表	・ ・ ・ ・	2 - 2
第 3 章	現場組織表	・ ・ ・ ・ ・	3 - 1 ~ 2
	1 . 現場組織表	・ ・ ・ ・	3 - 1
	2 . 施工体系図	・ ・ ・ ・	3 - 2
第 4 章	安全管理	・ ・ ・ ・ ・	4 - 1 ~ 7
	① 基本方針	・ ・ ・ ・	4 - 1
	② 安全衛生管理組織表	・ ・ ・ ・	4 - 1
	③ 安全衛生管理計画	・ ・ ・ ・	4 - 2 ~ 4
	負傷者搬送経路図	・ ・ ・ ・	4 - 5
	緊急時避難場所	・ ・ ・ ・	4 - 6
第 5 章	主要機械計画	・ ・ ・ ・ ・	5 - 1
	① 主要機械	・ ・ ・ ・	5 - 1
	② 主要機械計画	・ ・ ・ ・	5 - 1
第 6 章	資材計画	・ ・ ・ ・ ・	6 - 1
	工事資材使用届	・ ・ ・ ・	添付

第 7 章	施工方法	・ ・ ・ ・ ・	7 - 1 ~ 4
	① 施工順序	・ ・ ・ ・	7 - 1
	② 施工方法	・ ・ ・ ・	7 - 2 ~ 4
第 8 章	施工管理	・ ・ ・ ・ ・	8 - 1 ~ 3
	① 施工管理の基本構成	・ ・ ・ ・	8 - 1
	② 工程管理	・ ・ ・ ・	8 - 1
	③ 品質管理	・ ・ ・ ・	8 - 1 ~ 2
	④ 写真管理	・ ・ ・ ・	8 - 3 ~ 4
	⑤ 出来形管理	・ ・ ・ ・	8 - 5 ~ 6
第 9 章	緊急時の体制及び対応	・ ・ ・ ・ ・	9 - 1
第 10 章	環境対策	・ ・ ・ ・ ・	10 - 1
第 11 章	交通対策	・ ・ ・ ・ ・	11 - 1
第 12 章	再生資源の利用促進と建設副産物の適正処理	・ ・ ・	12 - 1
第 13 章	その他	・ ・ ・ ・ ・	13 - 1 ~

## 第 1 章 工事概要

## 1. 工事概要

1. 工 事 名 :

2. 施 工 場 所 : 鳴門市 町

3. 請 負 金 額 : ￥  
(内, 消費税 ￥ )4. 工 期 : 自 : 平成 年 月 日  
至 : 平成 年 月 日5. 発 注 者 : 鳴門市企業局  
鳴門市撫養町大桑島字凜岩浜35-9  
〈水道事業課〉 TEL 088-685-3330

6. 施 工 者 :

7. 工 事 数 量 :

## 2 . 位置図

## 3. 主要工種数量・支給材料及び貸与物件

## 1. 主要工種数量 : 次表の通り

工 種 名 称	形 状 寸 法	単位	数 量	参考数量	摘 要

## 2. 支 給 材 料 : 支給材料なし

## 3. 貸 与 物 件 : 貸与物件なし

## 第 2 章 計画工程表

### 1 . 工程計画

工程計画にあたっては、次の事項に留意する。

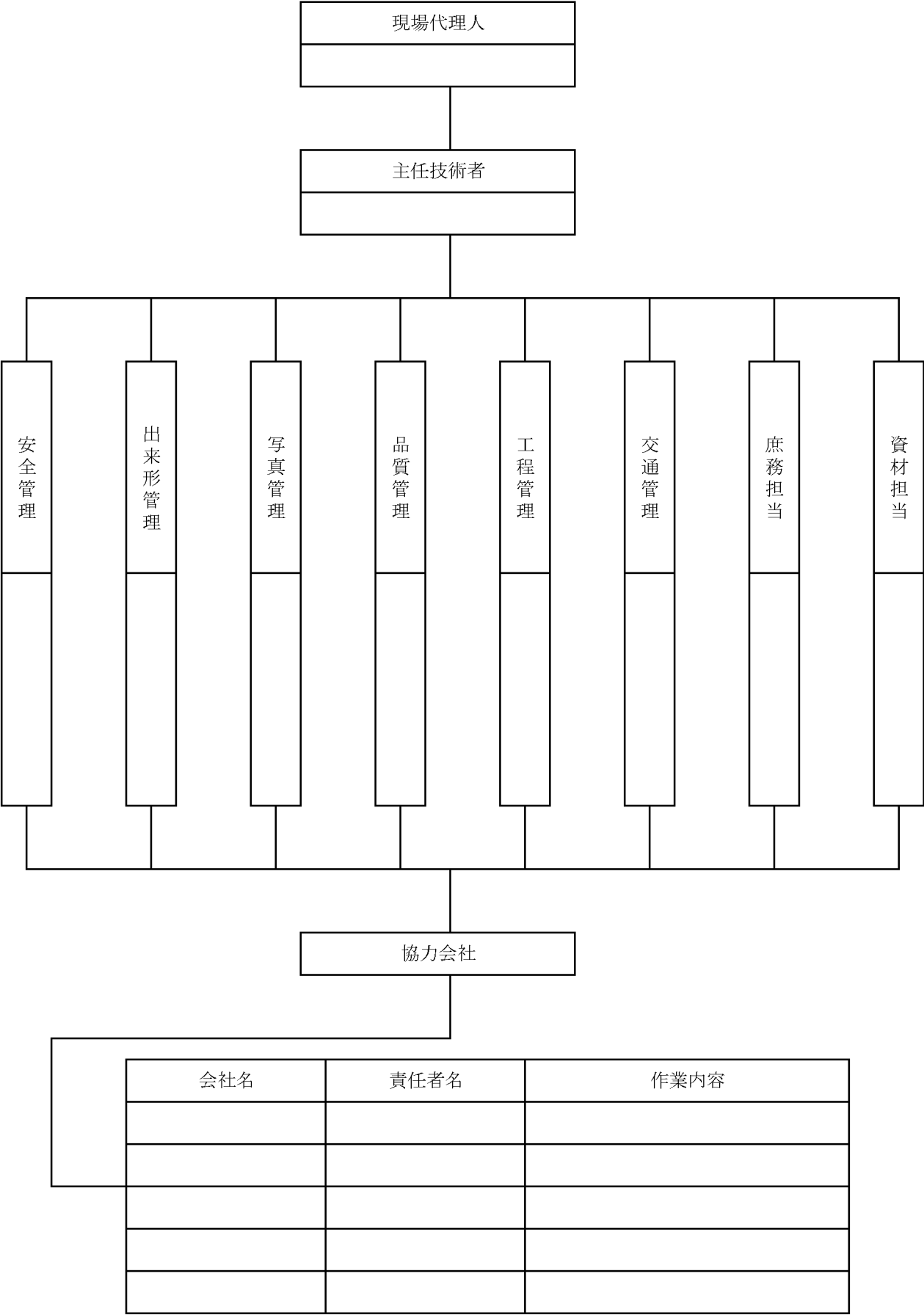
- 1 ) 工程の進捗状況を常に把握する。
- 2 ) 計画と実績に大幅なズレ（10%程度）が生じた場合は、工程の見直しを行なう。
- 3 ) 工程の遅れが生じた場合には、工程回復の処理を検討し、直ちに処置を行なう。
- 4 ) 気象予報・状況の把握を行い、先手管理を行なう。

## 2 . 計画工程表(実施工程表)

※計画工程表（実施工程表）は、当該工事について、具体的な実  
施工程を計画作成し、特に、配水管接続（切替）作業による、断  
水を伴う工事等、監督員の現場立会を要する時期を明示するこ  
と。



1 . 現場組織表



## 2. 施工体系図

工事作業所災害防止協議会兼施工体系図

発注者名	
工事名称	

元請負	
現場代理人名	
主任技術者名	

会 長	元請安全衛生責任者

副 会 長	

工期	自 平成 年 月 日
	至 平成 年 月 日

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

鉄 筋 工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

工 事	会 社 名	
	工 事 内 容	
	安全衛生責任者	
	主任技術者	
	専門技術者	
	担当工事内 容	
工期	年 月 日 ～ 年 月 日	

## 第 4 章 安全管理

### ① 基本方針

本工事を施工するに当たり、人命尊重の理念に基づき職員及び、全作業員の安全と健康を確保すると共に、快適な作業環境を形成する事は勿論、第三者に係わる人的物的損害の防止及び社会的環境の保全を図ることを目的とし、無事故無災害で工事が完成する事を目指します。

② 安全衛生管理組織表

元 請	安全衛生責任者
協力業者安全衛生責任者	

## ③ 安全衛生管理計画

## 1) 日常業務

## ・ 朝礼

毎朝作業開始前、現場において作業所責任者、職員及び全作業員が集合しラジオ体操、服装体調の点検、指示伝達、危険予知活動を行います。

## ・ 始業前点検

朝礼後、職員又は各機械、器具の取扱責任者が点検対象物をチェックシートにより安全の確認を行います。不具合のある物については、交換、修理、使用禁止等の適切な処置を取ります。

## ・ 元請安全衛生責任者の現場巡視

元請安全衛生責任者は毎日1回以上現場全体を巡視し、全般的な工事進捗状況の把握及び、不安全行動、不安全状態の改善及び指導を行います。

## ・ 安全・工程打ち合わせ

毎日13:00より職員、職長が翌日の作業の段取り、作業手順、工程の連絡調整の打ち合わせを行います。

## ・ 終業時の点検及び片付け

毎日作業終了10分前に現場内を職員及び全作業員が資機材の整理整頓、清掃を行い、快適な作業環境の維持に努めます。又、夜間対策、立入禁止策、火気の確認を行い、元請安全衛生責任者に報告します。

## 2) 毎月の業務

## ・ 災害防止協議会

毎月定めた日に、災害防止協議会会員で職種間の作業工程、進捗状況を把握して円滑な施工の推進と確保に努めます。

## ・ 安全パトロール

毎月1回以上、店社の実施する安全パトロールを受け、その指示、指導により安全で快適な現場環境の形成を目指します。

## ・ 安全教育訓練

毎月、半日以上（4時間以上）の時間を当て、全作業員の安全意識の高揚を図る為、全員参加にて安全教育訓練実施計画表に基づき、安全教育訓練を実施します。安全教育・訓練等の内容は、土木工事共通仕様書に示された、以下の項目から選択するものとします。

- ① 安全活動のビデオ等、視聴覚資料による安全教育
- ② 当該工事内容等の周知徹底
- ③ 工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底
- ④ 工事における災害対策訓練
- ⑤ 工事現場で予想される事故対策
- ⑥ その他、安全教育・訓練等として必要な事項

- ・安全衛生推進会議

毎月、定めた日に店社で開催する安全衛生委員会に参加し、安全に対する知識の吸収、安全意識の高揚に努めます。

- ・月例点検

毎月月初めに、機械、設備及び作業環境の点検を行います。

3) 随時

- ・新規入場者教育

当作業現場に入場する作業員に対して、入場者教育を実施し安全に対する意識、工事内容、作業手順について説明し、安全作業の徹底を図ります。

- ・持込み機械・器具の点検

当作業現場に搬入する機械・器具に対して、持込み時点検をチェックシートに基づき行い、不良機械・器具は持込みの禁止、修理等の処置を取り、機械・器具による災害の発生を防止します。

4) 安全教育訓練実施計画表

年 月	実 施 項 目	実 施 内 容	摘 要

## 5) その他

## ・ 緊急時の連絡体制

緊急時の連絡体制は、現場事務所及びヤードの見やすい所に貼っておき、全作業員に周知する。

## ・ 作業中止基準

本工事の作業中止基準は次の通りとするが、状況に応じて現場代理人の判断で作業を中止する場合がある。

風速       :     10m/秒以上

降雨       :     10mm/h以上

ただし、警報及び注意報が発令された場合、又雷鳴が近づいて来た時、体感地震が発生した時は、作業を一時休止して情報収集し、安全の確認が出来るまで待機する。状況に応じては一時避難の措置を取る。

作業を再開する場合は各自持ち場を点検して、異常の無い事を確認して、現場代理人の指示により、作業を再開する。

次頁に負傷者搬送経路図、緊急時避難場所を示す。

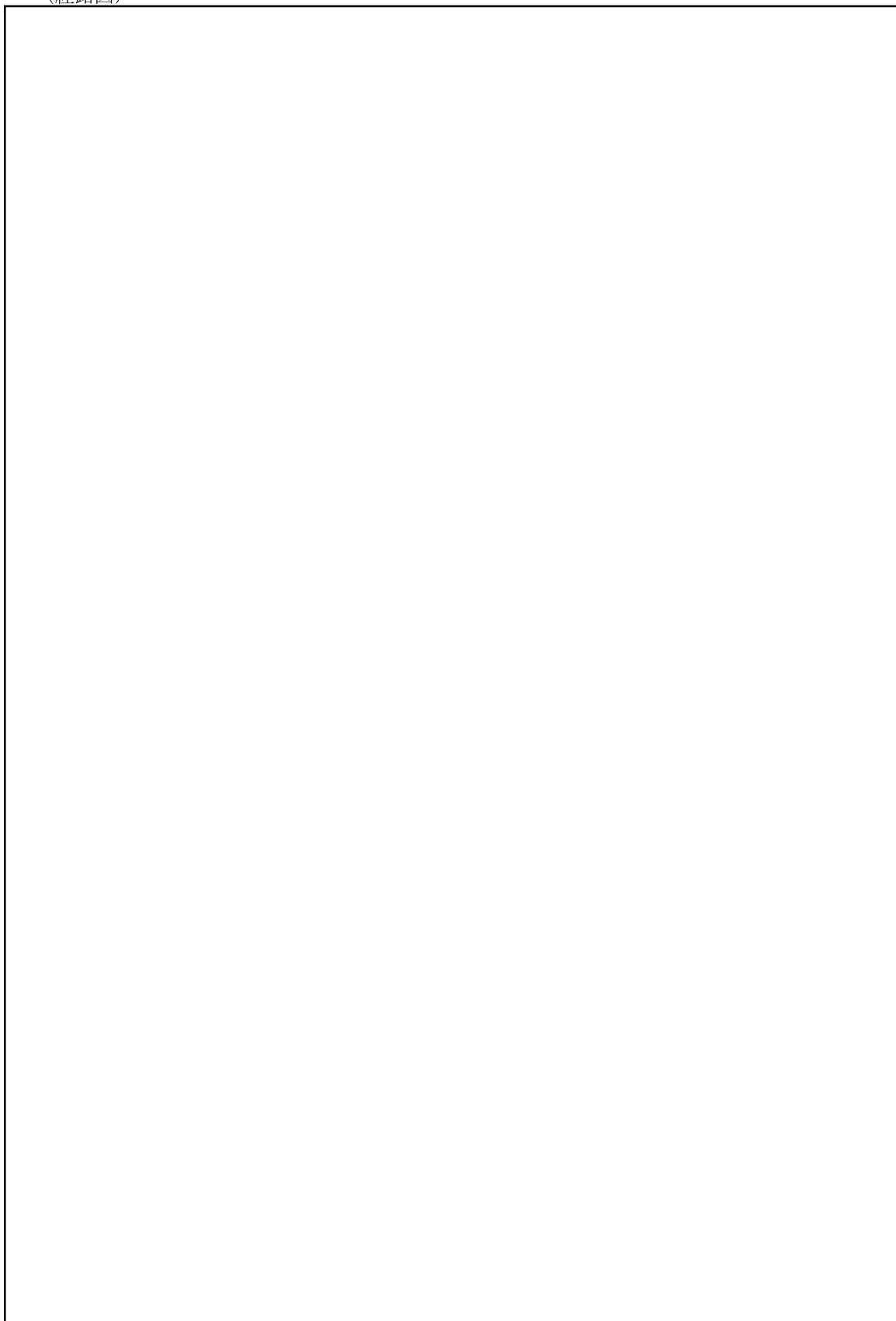
4 - 5       負傷者搬送経路

4 - 6       緊急時避難場所

負傷者搬送経路

_____	病院	TEL _____
距離 約 _____	km	所要時間 約 _____ 分

(経路図)



緊急時避難場所

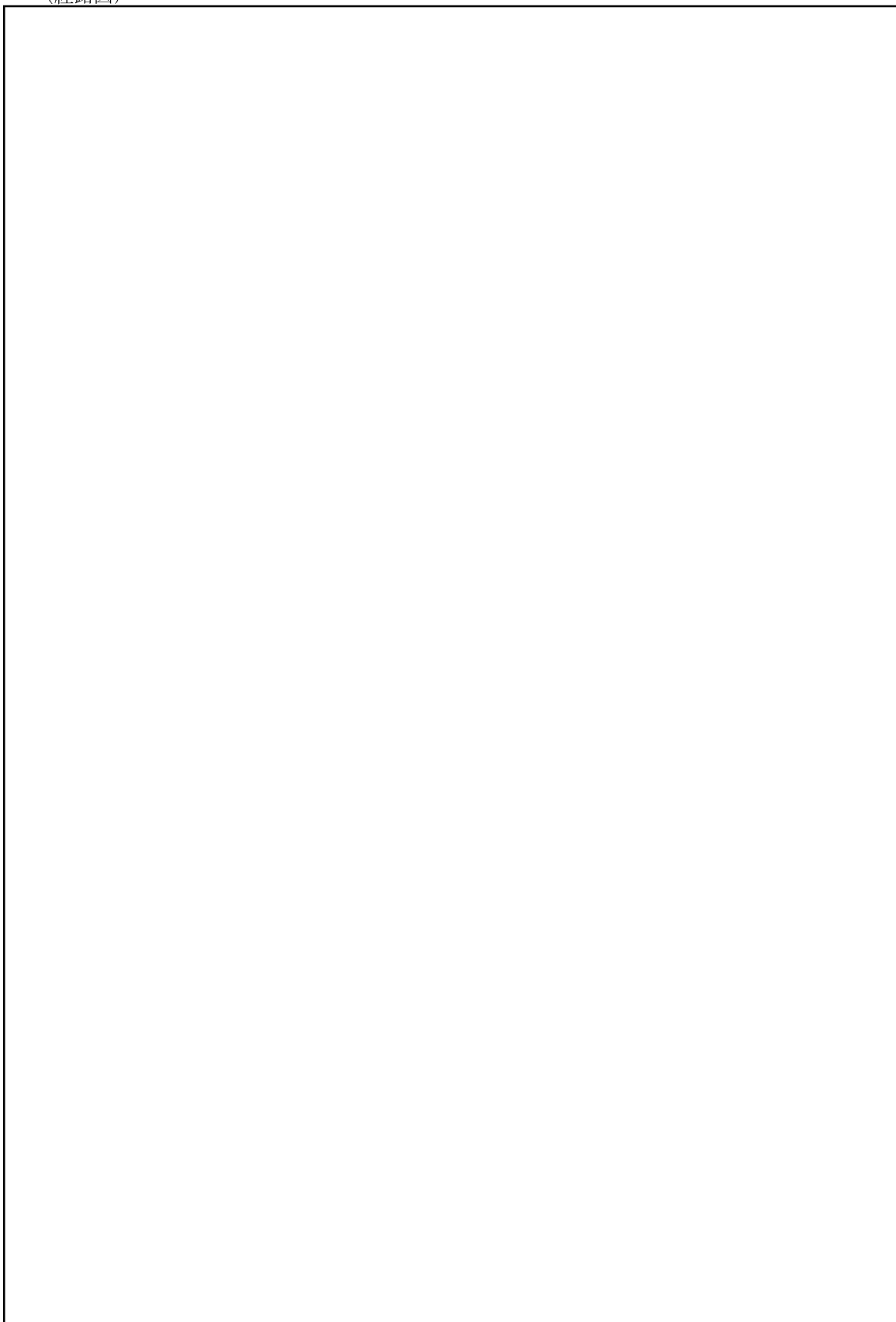
避難場所

---

距離 約            km

所要時間 約            分

(経路図)





## 第 5 章 主要機械計画

### ① 主要機械

[illegible]

## ② 主要機械計画

[illegible]

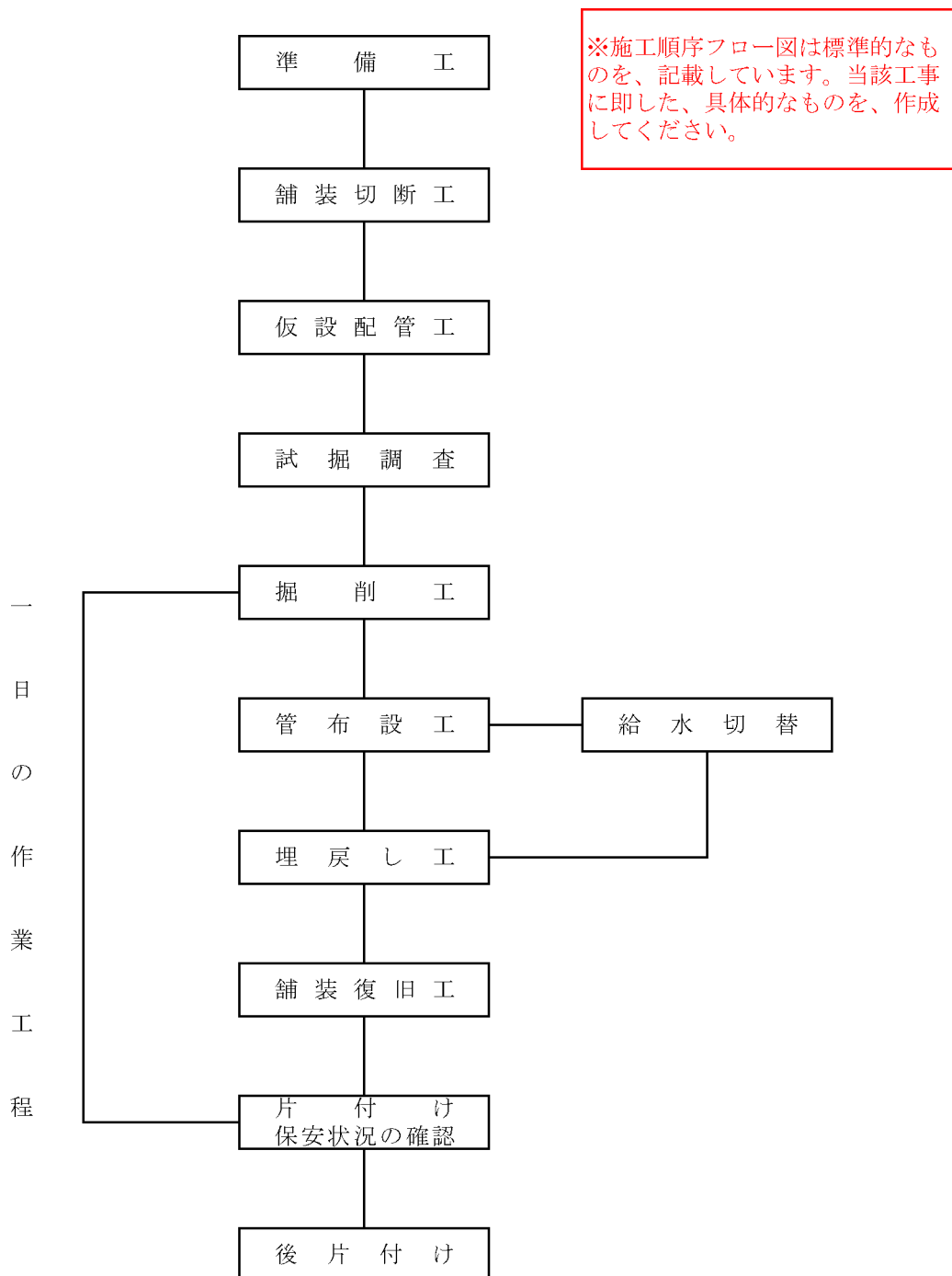
## 第 6 章 資材計画

工事資材使用届けを提出し、監督員による材料検査により、承認を得たものから、使用する。

本工事は、特記仕様書・徳島県土木工事標準仕様書・水道工事標準仕様書（日本水道協会）に準じ、施工いたします。

① 施工順序

工事の基本的な施工順序は、下記のフローに示すとおりとします。



## ② 施工方法

※施工方法は標準的なものを、記載しています。当該工事に即した、具体的なものを、作成してください。

### 1. 準備工

- ・ 工事に先立ち、施工位置、周辺状況の確認を行い、関係各所との連絡体系を確保し、安全かつ円滑な施工に努めます。
- ・ 現場前後に工事看板・注意看板等を設置し、交通災害等防止に努めます。
- ・ 基本測量として、路線測量、引込給水の位置確認を行います。
- ・ 地域住民への、工事案内・説明・調整を行います。
- ・ 仮設事務所及び、仮設資材置場の設置を行います。

### 2. 舗装切断工

- ・ 設計図書に基づき、適切な位置に、舗装切断機等を使用し、施工を行います。  
また、取り壊しに当たっては、既設舗装部分が粗雑にならないようにします。
- ・ 作業時には、保安施設及び交通誘導員を適切に配置し、交通上の安全を確保します。

### 3. 仮設配管工

- ・ 仮設配管は、工事施工中の各段階ごとに作用する応力に十分耐えられるものとし、接続部、交差部、支承部は、特に入念に施工します。
- ・ 仮設配管は、常時点検し、必要に応じて、修理補強し、その機能を十分発揮できるようにします。

### 4. 試掘調査

- ・ 工事施工に先立ち、試掘を行い、地下埋設物の位置を確認します。
- ・ 試掘箇所は、監督員との協議により決定します。
- ・ 試掘中は地下埋設物に十分注意し、損傷を与えないようにします。
- ・ 試掘調査に当たっては、土質の性状、地下水の状態等を、観察し、事後の掘削・埋戻し、土留工等の参考にします。
- ・ 試掘箇所は、即日埋戻しを行い、仮復旧を行います。
- ・ 試掘調査の結果、近接する地下埋設物については、当該施設管理者の立会いを求め、その指示を受け、適切な措置を講じます。

### 5. 掘削工

- ・ 掘削に当たっては、あらかじめ保安設備、土留、排水、覆土、残土処理その他につき必要な準備を整えたうえ、着手します。
- ・ 掘削の延長は、原則として、当日中に管布設及び埋戻しが完了できる範囲とし、その方法及び範囲を十分検討します。

- ・機械掘削を行う場合は、施工区域全般にわたり地上及び地下の施設に十分注意します。
- ・湧水のある箇所の掘削については、土留、排水等を適切に行います。
- ・床付け作業は人力にて行い、平坦になるよう、丁寧に仕上げます。
- ・発生土については、仮置場へ運搬し、仮置きします。土質試験結果により、埋戻し土として転用します。
- ・残土処理については、原則として自己処分します。その際、関係法令等を遵守し、適切に処分を行い、関係書類を発注者へ提出し、報告します。
- ・建設副産物・廃棄物の処理については、関係法令等を遵守し、請負者の責任において、適切に処理を行い、関係書類を発注者へ提出し、報告します。

## 6. 管布設工

- ・管及び弁類の取り扱いは、損傷を与えないよう、安全かつ丁寧にを行います。
- ・管の切断については、所要の切管長及び切断箇所を正確に定め、管軸に対して直角に行います。切断部は、管種に応じた適切な処理を行い、鋳鉄管の切断面は、衛生上無害な、防食塗装を施します。
- ・掘削完了後、不当沈下防止のため掘削底面を十分転圧した後に管布設を行う。
- ・管の据付に先立ち、十分管体検査を行い、亀裂その他の欠陥のないことを確認します。
- ・管布設作業は、安全に十分留意し、配管技能者により指揮・施工を行います。管の据付に当たっては、管内部を、十分清掃し、中心線及び高低を確認して、正確に据付けます。また、管体の表示記号を確認し、記号を上にして、据付けます。一日の布設完了後は、管内に土砂、汚水等が、流入しないよう蓋等で、管端部をふさぎ、管内には綿布、工具等を置き忘れないよう注意します。
- ・管接合については、管種により、接合要領書等に従って、確実に行います。
- ・鋳鉄管布設時は、防食用ポリエチレンスリーブ被覆工を施します。
- ・管布設後、設計書に示された所定の断面となるよう、砂巻を行い、管明示工を施します。
- ・配管終了後、継手の水密性を確認するため、管路の水圧試験を行います。水圧試験の時期・方法については、監督員の指示に従います。

## 7. 給水切替

- ・設計図書に基づき、本管より引込管を配管し、各戸の既設量水器及び既設給水管に接続します。
- ・給水管切替作業は、関係者に迷惑の掛からないよう、十分打合せを行い、所定の日時・位置・方法にて、行います。

## 8. 埋戻し工

- ・土質試験結果、掘削発生土砂が良質であれば埋戻し土として転用します。
- ・埋戻しに際しては、管その他の構造物に損傷を与えたり、管の移動を生じたりしないように注意します。
- ・埋戻しは、方埋めにならないよう注意しながら、厚さ30cm以下に敷均し、現地盤と同程度以上の密度となるように締固めを行います。

## 9. 舗装復旧工

- ・舗装開始は、路床面の不陸整正後、着手します。
- ・路盤の締固めは、路床、路盤材料及び使用機器の種類などに応じて適切な含水比で行い、所定の締固め度が得られるまで十分転圧します。  
設計図書に基づき、表層工を舗設します。  
舗設に先立ち、路盤表面の、清掃を行い、破損箇所は、補修します。  
所定の断面及び品質が確保されるよう、均一に、材料を敷き均し、適切な機械等により、十分締固めを行います。

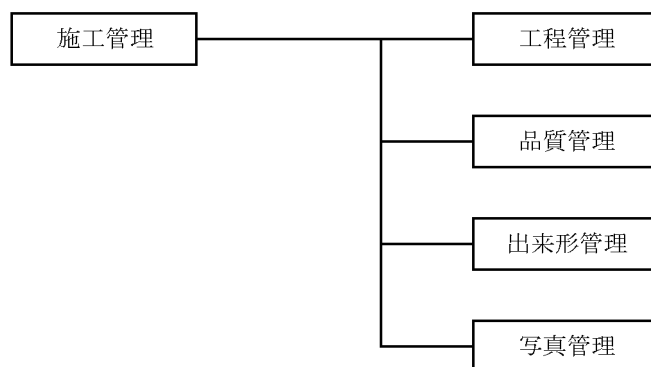
## 10. 片付け・保安状況の確認

- ・1日の作業終了時に、現場内に残コンクリート、残材、ゴミ等を残すことの無いように清掃を行います。また、保安設備等の点検を行います。

## 11. 後片付け

- ・工事完了後、現場および、仮置場等関係場所の整理・清掃を行い、関係各所への、工事完了報告を行います。

施工管理は「特記仕様書」・「徳島県土木工事共通仕様書」・  
「水道工事標準仕様書（日本水道協会）」に基づいて行います。



工程管理は、工事内容に応じた方式（バーチャート）により作成した実施工程表により管理します。工程に遅れが生じた場合は速やかに原因を解明して工程を立て直します。又、工事に変更が生じた場合もそれに応じた工程を立て、工期内に工事を完了させます。

品質管理は「徳島県土木工事施工管理基準（案）・品質管理基準及び規格値」  
「水道工事標準仕様書（日本水道協会）」に基づいて行います。

※当該工事に即した品質管理項目について、品質管理基準表を、作成してください。

品質管理基準表 ( 1 / )

[illegible]





および、「水道工事標準仕様書（日本水道協会）・工事写真撮影要綱例」に基づいて行います。

撮影した写真は、監督員が随時閲覧できるようインデックス等を付け整理し保管しておきます。

※当該工事に即した写真管理項目について、写真管理基準表を、作成してください。

[illegible]

写真管理基準表 ( 2 / )

[illegible]

「水道工事標準仕様書（日本水道協会）」に基づいて行います。

※当該工事に即した出来形管理項目について、出来形管理基準表を、作成してください。

出来形管理基準表 ( 1 / )

[illegible]

出来形管理基準表 ( 2 / )

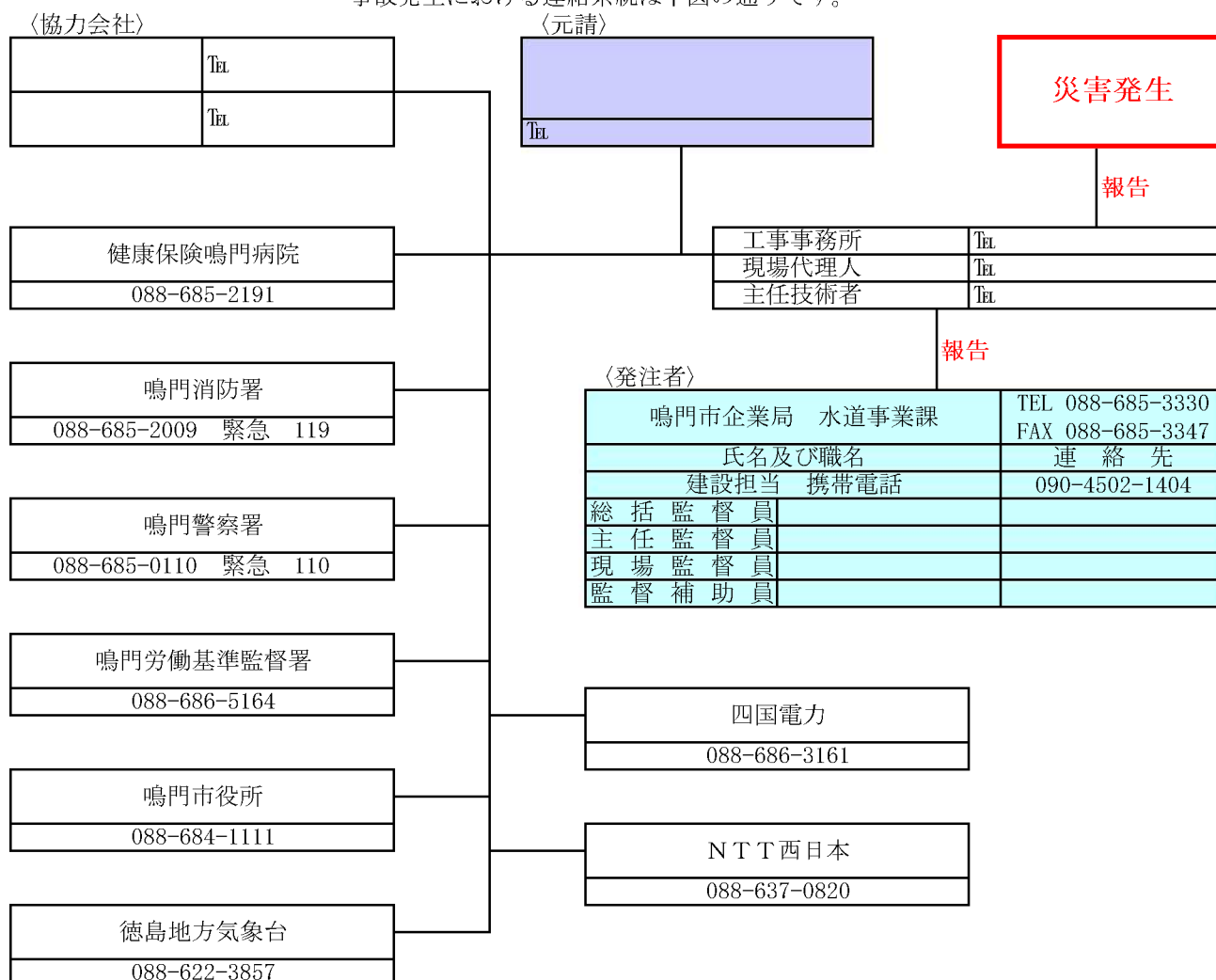
[illegible]

## 第 9 章 緊急時の体制及び対応

大雨・台風等の異常気象で災害発生のおそれがある場合、その他緊急時の場合は下記の組織構成で緊急時体制に入り、必要に応じ現場内を巡視して警戒します。



事故発生における連絡系統は下図の通りです。



## 第10章 環境対策

## 1) 排出ガス対策

本工事で使用する建設機械や工事用車両は、不必要な空ぶかしを禁止し、極力低回転での運転に努めます。また、アイドリングストップに留意します。

また、本工事で使用する機械は、「排出ガス対策型建設機械指定要領」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用します。

## 2) 騒音・振動対策

本工事では、関係法令を遵守し、低騒音型の建設機械を使用する等、周辺環境の保全に努めます。

特に夜間作業となる場合は、事前に周辺住民へ案内等を行い、理解を得ます。

## 3) 粉塵対策

施工時の粉塵対策として、適宜、散水等の処置を行い近隣への影響を最小限に抑えます。

## 4) 現場環境対策

現場内は常に整理・整頓し、作業終了時には清掃を行い、現場環境の保全に努めます。

## 第 11 章 交通対策

### ・ 交通安全管理

#### （通勤車両）

通勤車両は、交通法規を遵守して安全運転に努めます。又、就業時には付近道路に迷惑駐車をしないようにします。

#### （工事車両）

工事関係車両は交通法規を遵守して安全運転に努めます。人家密集地域、学童通学路等では最徐行運転を厳守するよう指導します。

車両に待ち時間が出来た場合は、予め待機場所を定め、そこで待機して迷惑駐車の無いようにします。

待機中車両は、エンジンを停止させます。

#### （資材運搬車）

資材運搬は関係法令を遵守した運搬を行い、一般車両及び通行者の支障とならないよう、注意します。

#### （過積載防止）

運搬車両運転者および積込担当者に、過積載の無いように指導します。

#### （交通誘導員の配置）

交通誘導員の配置計画を立て、交通災害のないよう、適切な交通誘導を行います。

#### （保安設備の配置）

作業状態に応じて、適切な保安設備の設置を行い、作業区を明示します。

夜間作業を行う場合は、保安灯・投光器等で作業区間を明示します。

#### （現場周辺への配慮）

車両等通行制限を行い、作業を行う場合において、事前に予告・案内等の措置を行い、特に、周辺住民への理解を得ます。

## 第 1 2 章 再生資源の利用促進と建設副産物の適正処理

### 〈再生資源の利用促進〉

本工事において、再生資源利用（促進）計画書を作成・提出し、特別な指定の無い資材については、再生資材を利用し。建設副産物について、再生可能な物は、再生資源化施設へ搬出し、処理することにより再生資源の利用促進に努めます。

### 〈建設副産物の適正処理〉

本工事で発生する産業廃棄物については、発注者の指導の下、排出事業者である元請業者の責任において、産業廃棄物として適正に処理します。

産廃処理委託業者には、収集・運搬及び処理業務に関する許可証の写し、許可の車両番号、排出場所から処分先までの運搬経路図等を提出させ、排出業者は、処分する毎に建設系廃棄物マニフェストを発行して、双方が保管管理を行います。

また、以上の関係書類を発注者へ提出し、適正な処理を行った事を報告します。

建設発生土（残土）については、残土受入地の資料を発注者に提出し、承認を得て、搬出・処理を行います。搬出完了後、残土搬出調書・写真を提出し、適正に処理したことを報告します。



